

第67回都市計画全国大会

～石川県金沢市～

茨城県土木部都市局都市整備課 柴 籠 健太郎

平成27年10月29日から30日まで、第67回都市計画全国大会が石川県金沢市で開催されました。

全国から都市計画やまちづくり行政に携わる関係者約700名が集まり、事例発表や意見交換、現地調査が行われました。

■大会1日目

○主報告

「都市行政をめぐる最近の動きについて」

昨今の都市を取り巻く状況や課題に対応するため、生活サービス機能と居住を集約・誘導し、人口を集積する「コンパクトシティ化」と、まちづくりと連携した公共交通ネットワークを再構築する「ネットワーク化」が必要となっています。国土交通省では平成26年度に改正した「都市再生特別措置法」及び「地域公共交通活性化再生法」に基づき、必要な機能の誘導・集約に向けた市町村の取組を推進するため、計画の作成・実施を予算措置等で支援しているとの報告がありました。

○部会（第3部会）

「地域と連携した魅力ある景観の保全・形成」

テーマごとに3つの部会に分かれて報告が行われました。このうち、私が参加した第3部会では、地域と連携した魅力ある景観の保全・形成について、石川県能登町、長崎県、京都府からそれぞれ事例報告がありました。

＜報告1＞「能登町『春蘭の里』里山景観の保全・再生の取組」

石川県能登町では、人口減少や高齢化が著しい地域の課題を解決するため、地元の有志7名により平成8年からまちおこしの取組を開始し、農家民宿での修学旅行の受け入れや農業体験等の活動を実施し、地域の活性化に寄与しているとの報告がありました。また、県の「景観形成重点地区」第1号に指定され、白壁黒瓦の美しい家並みの保全も実施しているとのことでした。

＜報告2＞「地域と連携した広域景観形成事業の取り組みについて」

長崎県では、観光地が県内全域に散在する状況を踏まえ、複数の市町村に跨る「広域景観形成」に向けた取り組みをスタートさせ、モデル地域として「五島地域」を選定し、現在、協議会を設立してアクションプログラムに基づき各種事業を実施しているとの報告がありました。また、今後の課題として、市町や住民を主体とした体制

への移行や、財源、人的支援の必要性等があげられました。

＜報告3＞「京都市の景観政策と地域景観づくりの取組」

京都府では、平成19年から、建物の高さ規制やデザイン基準等を見直した「新景観政策」を実施し、条例が完全施行される平成26年9月までに新たに条例違反となった屋外広告物の是正指導を強化したとの報告がありました。その結果、四条通の袖看板撤去により景観が改善され、現在は「景観づくり協議会」との意見交換等により、景観の維持向上に努めているとのことでした。



○記念講演

「新幹線開業と都市づくり－金沢の事例－」金沢工業大学教授 水野 一郎 氏

金沢市は、北陸新幹線の開業を契機に、軸状都市への転換を図るべく、駅の東側と西側のそれぞれにおいて、異なる手法によりまちづくりを進めているとのことがありました。駅東側の兼六園側では、旧市街地の伝統の保存継承を図りながら市街地再開発事業を中心に実施し、駅西側の金沢港側では、50m道路を中心に、県庁舎移転等を含む土地区画整理事業を中心にまちづくりを進めており、その象徴として、兼六園の「雪吊り」を事例に挙げて、「機能」を「美」に高めているとのことがありました。



兼六園 (石川県ホームページより)

■大会2日目

3班に分かれての現地調査が行われ、私は「能登コース」に参加しました。

①都市再生整備計画事業「輪島中央地区」

NHK連続テレビ小説「まれ」の舞台ともなった輪島市では、輪島朝市や輪島港マリンタウン内の「キリコ会館」を中心に都市再生整備が進められ、ドラマによる知名度上昇の効果も手伝って、観光客数増加により地域の活性化につながっているとのことでした。



輪島朝市

②街路事業「府中七尾駅線」

JR七尾駅と七尾港とを結ぶ御祓川大通りを七尾市の都心軸と位置づけ、並行する御祓川の河川改修事業と併せてシンボルロードとしての整備が進められていました。沿道建築物の景観誘導のため、沿道住民が参加する検討会議が開催され、「みち・かわ・まちなみが一体となった明るい和風の港町」をコンセプトとした景観ルールの策定が行われたとのことでした。



府中七尾駅線

③都市再生整備計画事業「和倉温泉地区」

加賀屋を初めとする高級温泉街として有名な和倉温泉地区では、近年の旅行ニーズの多様化などにより低迷していた観光入込客の増加を目指し、「和倉温泉街にぎわい再生協議会」を設立し、関係機関が連携しながら「おもてなしのまち」づくりを進めてきたとのことでした。併せて、北陸初の「景観協定」に基づく規制や誘導を行い、まち歩きをする人や共同浴場「総湯」の入込客数の大幅増加といった成果も現れているとのことでした。



共同浴場「総湯」

④金沢外環状道路 海側幹線

金沢都市圏の骨格を形成し、加賀・金沢・能登の連携強化を図る地域高規格道路「金沢外環状道路海側幹線」は、側道部を先行して県・市・区画整理組合により分担し、4期に分けて整備が進められ、これまでに延長13kmを4車線で供用開始したとのことでした。

■おわりに

今回の都市計画全国大会は、北陸新幹線の開業やNHK連続テレビ小説の舞台となり、今まさに旬な「能登地域」で開催され、その熱気に沸く「まち」の活気を肌で感じ取ることができました。

大会の主たるテーマとして、昨今の都市行政における全国的な課題であるコンパクトシティの実現や、住民等と一体となった地域資源を活かした景観形成の取り組みなど、様々な事例を勉強することができましたが、それ以外にも、講演等の合間に金沢市内の街歩きや食べ歩きをすると、そこに暮らす市民の方々のおもてなしの姿勢、人の温かさを実感することができ、まちづくりには「人」という要素も重要であると感じました。

最後に、金沢市は、日本三名園の一つである兼六園を有し、茶屋街をはじめとする歴史的町並みを残しつつ、一方で県庁舎周辺には新市街地を形成するなど、本県とも類似する点が数多く見られ、今後の本県におけるまちづくりの取組にも非常に参考となる、大変有意義な研修となりました。



金沢駅（鼓門）